

# 特別の教育課程の編成方針

## 令和8年度 六合小学校 特別の教育課程の編成方針

### 1 特別の教育課程の内容

#### (1) 教科、時数等

小学校第1、第2学年において「外国語活動」を行う。

- ・第1学年は生活科を34時間削減し、「外国語活動」を行う。
- ・第2学年は生活科を35時間削減し、「外国語活動」を行う。
- ・全学年の「外国語活動」及び「外国語科」の名称を「英語科」とする。

#### (2) 実施期間

令和8年4月1日～

### 2 特別の教育課程を編成する必要性

#### (1) 印西市の取組から

印西市においては、小・中学校へ週1～5日、幼稚園へ月1回、外国人指導助手（ALT）を配置し、主に授業を通して異文化や外国語に触れることを体験し、コミュニケーションを図ろうとする態度や能力を育成している。また、全小学校に英語教育コーディネーターを配置し、外国語活動及び外国語科の充実を図っている。また、イングリッシュアカデミーホップ・ステップ（小学校3～6年生対象）・ジャンプ（中学校2・3年生対象）を開催し、英語コミュニケーション能力の向上や異文化理解を深め、国際化に対応できる人材の育成を図っている。このように、市全体で外国語教育の充実を図ってきたところである。現行学習指導要領の下においても、全学年の外国語教育の量と質を確保し、中学校へのスムーズな接続やさらなる授業改善に努めていくため、1・2年生の「外国語活動」を実施する。

#### (2) 本校の取組から

本校では、学校教育目標である「やさしく・かしこく・たくましい」児童の育成を目指し、市の取組と連携しながら系統性を重視した外国語教育を推進してきた。特に低・中学年では、絵本やイラスト等の教材活用に加え、英語教育コーディネーターやALTのネイティブな音声に日常的に触れる環境づくりに注力してきた。また高学年では、ICT教材を駆使した対話的な学びを通じ、「思いを伝え合う喜び」を実感できるよう、全校体制で授業改善を積み重ねてきている。

こうした本校のこれまでの成果をさらに発展させ、子どもたちのコミュニケーション能力をより高い次元で育むため、特別の教育課程による低学年からの英語教育を開始する。低学年から「聞く・話す・読む・書く」の4技能を段階的に積み上げることで、英語をツールとして自信をもって未来を切り拓く力を養っていく。

### 3 特別の教育課程を実施するにあたっての配慮事項

- ・生活科の削減分については、年間指導計画を見直し、生活科の目標を達成できるようにする。
- ・市教委作成の指導計画を活用し、1・2年生の児童の発達段階や3・4年生の「外国語活動」への接続、6年間の系統性を踏まえた活動となるようにする。
- ・全ての授業を担当等と外国語指導助手（ALT）・英語教育コーディネーターとのチームティーチングで行い、ネイティブの発音に繰り返し触れることができるようにする。
- ・特別の教育課程について、保護者や地域住民、学校関係者への周知を行い、理解を得る。